



波佐見



全く異なる道を行ってきたものの、
 どちらも四〇〇年という長きにわたって、
 職人たちの技が受け継がれ、
 時代を超えて人々に愛されてきた。
 春はやきものの里が一段と活気づく季節。
 花の香りと温かな風に誘われて、
 二つの産地を訪ねた。



三川内

春うららの休日は、
 やきものの里へ

平戸藩の御用窯として
 質の高い献上品を作り、
 江戸時代の後期にはその類まれな技術で
 ヨーロッパに旋風を巻き起こした三川内焼。
 そして、日本有数の生産力で
 庶民のための器を作り続けてきた波佐見焼。
 三川内焼と波佐見焼は

